

三鷹市立羽沢小学校 令和5年度【国語】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 個別に指導が必要な児童には、授業者以外の教師や支援員が指導にあたることで、複数体制で指導することで個に応じた支援ができた。 発展的な学習としての教え合いや学び合いは、児童の実態から難しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名を読んだり書いたりすることに意欲的で、関心をもって学習に取り組む児童が多い。 助詞や長音、拗音、促音などを正確に使って、文を書くことができていない児童がいる。 文を言葉のまとまりとして、読むことが難しい児童がいる。 本を読むことは好きだが、気に入った本ばかり読んでいる児童が多い。また、語彙の習得は個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読する機会を多く設定し、様々な音読のさせ方をする。 自分の考えをもったり話したりする経験を重ねるため、対話などの交流の場面を意図的に設定する。 平仮名や助詞などについては、ノート指導を充実させ、補充教室や朝学習の時間等を活用して個別指導を充実させ、定着を図っていく。 司書と連携して、教科書で学習したことと関連する書籍を用意し、授業で紹介する。 児童の発表の場面から、多様な考え方があることに気付かせ、考えを広げる良さを感じられるように言葉掛けをしていく。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせを中心に本に親しむ時間を設けたが、読書への興味関心は個人差が大きい。 拗音、促音、濁音、助詞の使い方は繰り返しの指導が必要。 よい児童を例示することで、よい表現方法について、広めることができています。 順序良く表現することは、できる児童が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の中で既習の漢字を使うことができない児童が多い。 語彙力、表現力に個人差がある。 ひらがな、かたかな、拗音、促音、濁音、助詞が身に付いていない児童がいる。 読書への興味関心は個人差が大きい。 「順序」や、繰り返し出てくる語句に注目して読む指導を行っている。 日記指導を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> よい表現方法を例示として取り上げ、広めていく。 拗音、促音、濁音、助詞（を・は・へ）の使い方について繰り返し指導する。 読書への関心を高めるために、読書する時間や読み聞かせをする時間を設ける。 順序良く話す、順序良く書くなど発信者としての力をつけさせるようにする。 話型を示し、結論+理由で伝えられるようにする。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 主語や述語が明確でないことや、助詞や拗音、促音の使い方に誤りがあるなど、言葉の書き方、使い方を定着させるための指導が必要である。 作文指導では、観点を示し、読み直した時に児童自身で誤りに気付けるようにする。 書きぶりの良い児童の作品を取り上げ、タブレット端末等を用いて共有し、児童たちが具体的に良い書き方のイメージをもてるようにすることで、意欲の向上につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の冒頭に音読教材等を用いて、音読指導をしている。 分からない言葉が出てきた際は、国語辞典で調べるように指導している。 叙述をもとに、自分の考えを表現できるように指導している。 文章を書く時に、主語と述語が明確になるように指導している。 拗音や促音の誤字が目立つ児童が各学級に数名いる。 助詞の活用に誤りが目立つ児童が各学級に数名いる。 週に1回程度、週末を利用して日記を書かせ添削を行っている。また、必要に応じて添削したものを写させることで、正しい日本語の文脈が身につくよう指導している。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な日記を書く課題を通して、一定程度正しい文脈で文章を書ける児童が増えた。一方で十分ではない児童もいるので、今後文章量と出題頻度のバランスを図る。 作文指導では、観点を示し、読み直した時に児童自身で誤りに気付けるようにする。 書きぶりの良い児童の作品を取り上げ、タブレット端末等を用いて共有し、児童たちが具体的に良い書き方のイメージをもてるようにする。 書くことへの耐性をつけるため、日記指導を取り入れる。 読むことの単元を中心に、キーワードは何かと考え、要点をまとめられるように指導する。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 音読カードを家庭学習に取り入れ、学習前に読み取りの視点を持たせたことで、授業の内容をより理解することにつながった。 内容の理解が不十分な児童に、個別に声掛けを行うことで、理解を促すことにつながった。 文章を書く機会を増やしたことで、伝えたいことを分かりやすく文章にすることができるようになってきた。また、書いた内容を紹介し合うことで、感想や考えを互いに受け止め、学びの幅を広げていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読カードを活用し、家庭学習においても学習内容に触れる機会をつくっている。教科書を読むことで、予習や学習内容の確認、復習をすることにつながっている。 音読では、スムーズに読めなかつたり、自分の思い込みで読んでしまったりする児童がいる。 発問に対しては、挙手をして発言する児童が多い反面、挙手をしない児童は挙手をしないと、二極化してしまっている。 新出漢字については、期限を設定し、その日までに自分のペースで練習するようにしているが、自分に合ったペースが分からず、うまく学習がすすまられていない児童がいる。 既習漢字の定着率が不十分な児童がいる。 学校図書館を活用したり、保護者に協力を仰いだりして、読書への関心を高めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読カードについては、ただ音読をするのではなく、学習内容に即した読みのめあてをもって取り組めるようにしていく。 教科書を読んでいく中で、分からない言葉があった場合は、そのまませず、自分で調べていくようにしていく。 児童がじっくりと考える時間を確保する。また、ペアやグループ学習などを通して、自分の考えを共有する時間を設定し、全体でも自信をもって発言できるように促していく。 新出漢字の学習については、定着が不十分な児童については個別に対応し、確実に身に付けていけるようにする。 既習漢字の定着率が不十分な児童については、個別に対応するとともに、家庭とも連携を図りながら、定着に向けて取り組めるようにしていく。 学期に一度の読書週間を有効に活用し、児童がより読書への関心を高められるようにしていく。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字の学習では、教材のドリルを活用し、繰り返し練習を行うことで一定の定着が見られたが、個人差は大きい。 タブレットを活用し、日常的に言葉や熟語、漢字を調べたりしたため、言語理解は高まったが、理解の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字の定着は見られるが、熟語や文章として活用できる児童は少ない。 読む力は個人差が大きく、難しい文章でもスラスラ読める児童もいれば、低学年向けの文章を読むことが困難な児童もいる。 自分の考えを伝えたいという意欲が高く、挙手や発表が多い。 前時の振り返りを行い、学習の定着を確認する時間を多く設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字ドリルの熟語の部分に着目させたり、プリントを活用したりして、漢字単体を暗記させるのではなく、熟語として覚え、文章内で活用できるようにする。 他教科においても、文を書く際には既習漢字や語句を使うように声掛ける。 発表意欲の高さを維持できるように、グループ学習や発表の機会を充実させる。 日常的に辞典やタブレット端末を活用して、分からない言葉や熟語を調べる習慣をつくる。どんな時でも、疑問に思ったことは自ら調べるよう指導する。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 読書活動の時間を持続的に確保し、読書への関心や読解力を高め、読書の幅が広がった。 音読教材を用いた音読指導を続けたことで、表現することへの抵抗がある程度和らげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の定着力が低く、語彙力も少ない児童がいる。 音読は抵抗なく取り組める児童が多い。 登場人物の気持ちや考えに積極的に取り組むが、記述をもとに根拠を明確にして考えることができない児童が多い。 書くことに抵抗なく取り組める児童が多いが、目的に沿って書くことができない児童が多い。 漢字の定着と語彙力の向上。 記述をもとにした根拠ある読み取り。 目的を意識した読む・書くの学習活動。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の定着力を高めるために、宿題でドリルを活用した書き取りや教科書の音読、読書に毎日取り組む。小テストや中間テストを定期的に行う。合格点を定め、8割の児童の達成を目指す。 文章を書く際には既習漢字は使うように指導する。使えていない場合は直す。 漢字テストの前後に繰り返し練習する自学ノートを用意する。 語彙力を高めるために、教科書で取り扱う語句の定着を図る。意味調べを可能な限り行う。読み方、意味だけでなく使い方も繰り返し行う。 自分の考えを深めるために、時間を十分に取って、意欲的に学習に取り組めるようにする。 状況により、ペアやグループでの話し合いも取り入れ、考えたことをアウトプットできる機会を設ける。

三鷹市立羽沢小学校 令和5年度【算数】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 保護者サポートを活用し、理解が難しい児童に対応することができた。 授業の冒頭で数の構成を練習をして積み重ねを図ったが、未定着の児童もいる。 ノートの書き方を丁寧に言い、指導したが、引き続き指導を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> 数を数えたり、たし算やひき算をしたりすることに意欲的で、関心をもって取り組んでいる児童が多い。 数の大小については理解しているが、10の合成・分解について習熟していない児童がいる。 文章題では、内容を理解せず、読むだけで解答する児童がいる。 答えを書く際、単位を正しく書けない児童がいる。また、「どちらがどれだけ多い」「どちらがどれだけ少ない」など問われたことに正しく答えられない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1から10までの数、10から100までの数を具体物や半具体物を使ったり、操作したりしながら、数を一致させる。 たし算やひき算の意味理解が不十分な児童に対しては、絵や図を使って考えさせたり、たし算・ひき算の言葉のキーワードに注目させたりする。 10の合成と分解、繰り上がり・繰り下りの計算を確実に理解させるために、ブロック等の操作を授業の中で繰り返し行う。 「〇ほん」「〇ひき」等の数え方については、繰り返し学習する。 個人差や個別の対応をするために、均等割りだけでなく、少人数の習熟度別クラスを編成する。 ノート指導では、学習の過程が分かるようなノート作りができるようにする。 eライブラリーを活用して、単元の終わりと学期の終わりと、それぞれの学習の理解度に対応して学習を進める時間を確保する。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を使い、視覚的、感覚的に捉えられるようにした。 「eライブラリー」を活用して、個別最適化を進めながら基礎基本の定着を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期は、生活指導上の問題から習熟度別にクラスを編成できず、児童の特性を考慮してのクラス分けを行って指導した。 必要に応じて可能な限り学習サポートを活用し、理解が難しい児童に支援している。 数の構成が未定着な児童がいる。 量感が乏しい児童がいる。 繰り上がり、繰り下りのある計算が未定着な児童がいる。 数量感覚が身に付きづらい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通した補充教室の実施及び学習サポートを活用してより細やかな指導を行う。また、後期は習熟度別学習を行い、たい。 前年度を踏襲した教材でなく、子どもたちの実態を考え、学年で吟味した教材を採用するようにする。 自分の考えを言葉や図で表せるように指導する。 タブレットや具体物、単焦点プロジェクターを活用しながら、視覚的・体験的に数量感覚を養えるようにする。 eライブラリーを活用して、前年度の学習に立ち戻って学習ができるようにして基礎基本の定着を図る。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 自力解決の場面を設定すると、チャレンジコースの児童は比較的解法を考えることができるが、じっくりコースの児童は困難であることが多かった。 前学年までの学習した内容が身に付いておらず、四則計算でつまずく児童が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別に学年でクラスを分けて指導している。 理解が難しい児童は、じっくりコースで個別支援を重点的に行い、算数サポート隊を活用して学習への促しを行っている。 時刻と時間の学習では、理解ができていない児童が多く見られた。 かけ算九九が身に付いていない児童は、わり算の学習でつまずいている様子が見られた。 たし算やひき算では、指を使って計算するなど、全学年までの学習は身に付いていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通した習熟度別のコース分け、補充教室の実施及び算数サポート隊を活用して、より細やかな指導を行う。 東京ベーシックドリルの診断を行い、結果を分析する。苦手な分野を中心に、補充教室等で東京ベーシックドリルやeライブラリーに取り組み、基礎・基本の定着を図る。 家庭学習では、計算ドリルやeライブラリーを活用して、苦手な分野や前学年までの学習について復習できるようにする。 ノート指導では、短焦点プロジェクターで児童と同様のノートを示すなどして、ノートの書き方を理解できるようにする。 コースによっては、発展問題に取り組むようにし、学習の理解度に応じて、それぞれが学習を進められるようにする。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 自力解決の場面を設定することで、自分の考えを既習事項を生かして説明することができる児童が増えた。 四則計算などの知識・技能面は、定着できている児童とそうでない児童の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別に学年でクラスを分けて指導している。 理解が難しい児童は、じっくりコースで個別支援を重点的に行い、算数サポート隊を活用して学習への促しを行っている。 主にチャレンジコースを中心に、乗り入れ指導を行い、中学校の数学科の教員が児童の学びを支援している。 前学年までの学習内容が定着していない児童が多い。 わり算の筆算や角度の計測などの知識・技能面の定着には、全体的に時間がかかっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通した習熟度別のコース分け、補充教室の実施及び算数サポート隊を活用して、より細やかな指導を行う。 東京ベーシックドリルの診断を行い、結果を分析する。苦手な分野を中心に、補充教室等で東京ベーシックドリルやeライブラリーに取り組み、基礎・基本の定着を図る。 家庭学習では、計算ドリルやeライブラリーを活用して、苦手な分野や前学年までの学習について復習できるようにする。 短焦点プロジェクターや具体物を用いて、図形分野の内容を視覚的、感覚的に捉えられるようにする。 自分の考えを言葉や図、式などで表現し、他者に説明できるようにする。また、自分の考えを伝え合う場を設け、問題解決ができるようにする。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題では、何を求める問題なのかを理解できず、立式を誤る児童が多かった。 前学年までの学習した内容が身に付いておらず、四則計算でつまずく児童が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別に学年でクラスを分けて指導している。 理解が難しい児童は、じっくりコースで個別支援を重点的に行い、算数サポート隊を活用して学習への促しを行っている。 算数が苦手な児童でも、粘り強く取り組む姿が見られる。 ワークテストでは、全体的に知識・技能よりも、思考・判断・表現での得点が高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通した習熟度別のコース分け、補充教室の実施及び算数サポート隊を活用して、より細やかな指導を行う。 東京ベーシックドリルの診断を行い、結果を分析する。苦手な分野を中心に、補充教室等で東京ベーシックドリルやeライブラリーに取り組み、基礎・基本の定着を図る。 家庭学習では、計算ドリルやeライブラリーを活用して、苦手な分野や前学年までの学習について復習できるようにする。 前学年までの学習内容を確認しながら、学習を進めるようにする。 自分の考えを言葉や図、式などで表現し、他者に説明できるようにする。また、自分の考えを伝え合う場を設け、問題解決ができるようにする。 自分の考えを表す方法として、4マス関係表や数直線などの表し方を指導する。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 前学年までに学習した内容を確認しながら進めたが、身に付いていない内容が多い児童もいた。 自分の考えを言葉や数直線などの図を用いて、数式と関連付けて説明することで、児童同士での学習理解が深まった。 4マス関係表などを用いて、自力で問題を解ける児童も増えてきたが、文章理解が難しい児童は解法を考えることが困難だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別に学年でクラスを分けて指導している。 理解が難しい児童は、じっくりコースで個別支援を重点的に行っている。 課題に意欲的に取り組む児童と、消極的な児童の差が大きい。 前学年までの既習事項の定着が不十分なため、特に分数と小数の計算、倍の計算などでつまずく児童が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通した習熟度別のコース分け、補充教室の実施及び算数サポート隊を活用して、より細やかな指導を行う。 東京ベーシックドリルの診断を行い、結果を分析する。苦手な分野を中心に、補充教室等で東京ベーシックドリルやeライブラリーに取り組み、基礎・基本の定着を図る。 家庭学習では、計算ドリルやeライブラリーを活用して、苦手な分野や前学年までの学習について復習できるようにする。 前学年までの学習内容を確認しながら、学習を進めるようにする。 何を求める問題なのかを確認しながら、4マス関係表などを用いて自力で問題を解けるようにする。

三鷹市立羽沢小学校 令和5年度【社会】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年			
第2学年			
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 資料提示の際に、気付いたことをしっかりと書く児童が増えてきた。 学習問題をつくる時に資料を根拠にして、問題をつくる児童が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの地域や三鷹市を中心に地図に書き込む学習を通して、地図に慣れ親しむ児童が多い。 地図の味方、地図記号の理解に課題がみられる。 資料を読み取ったり、活用したりすることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真やグラフ、地図、統計等の資料の読み取り方を丁寧に指導する。 資料の読み取り方を確認し、読み取るための時間を十分設定できるよう、時間配分を考える。 様々な資料を読み取ったり、分かったことをもとにそれぞれの事象の特色について考え、さらに相互を比較したり、関連付けたりする活動を取り入れる。 方位については、日常生活の中で意識的に活用し、生かすように繰り返し指導する。 ◎個で調べる時間、グループで話し合う時間を多く取り入れる。気付いたことや分かったことなどの情報を共有し、学びを深められるようにする。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 日本列島や東京都の地理は、帯時間で場所や地名を覚える時間を設定したことで、知識を定着させることができた。 ◎授業の中で考えを述べ合う時間を設け、他者と考えを交えることで個々の学びを深めていくことができた。 ◎社会科見学などで学んだことや調べて分かったことを、自分なりにまとめることで理解が深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 水については、水道キャラバン・下水道キャラバンで学びを深め、ごみの処理については、グリーンプラザふじみに社会科見学へ行き、実際に見て学ぶことができた。 ごみの処理については、家庭でのごみ調べを行うことで、自分に身近な問題であることを意識して学ぶことができた。 知識としては身に付いているが、グラフや写真等の資料と知識を関連付けて考えたり、自分の考えを相手に伝えるように記述したりすることが不十分な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京都の地域の様子については、社会科見学の時間を有効活用できるように計画し、学びを深められるようにしている。 自然災害についての学習では、避難訓練等とも関連付けて学べるようにするとともに、都や市、地域の取り組み等にも目を向けられるようにして、自分事としても捉えられるようにしていく。 ◎授業の中で、資料から読み取ったことを共有し、そこからどんなことが考えられるのかを児童が述べ合う時間を設け、他者と考えを交えることで個々の学びを深めていく。 ◎授業や社会科見学などで学んだことを、新聞などにまとめる活動を取り入れ、自分なりに学習内容の要点を考えながらまとめられるようにしていく。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> お互いの意見を共有して考えの参考になるように指導することで資料から自分の考えをもつ児童が増えた。 ノートにまとめを書くことで思考の整理につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを積極的に活用し、まとめに利用したり追究活動に使用したりしており、そのスキルも高い。 課題を追究しようとする意欲は育ってきたが、課題追究のスキルや表現力が乏しい。 学習内容が多く、ペアや小グループでの話し合いの時間の確保が十分にできず、児童同士が学びを確認したり、学びを深めたりできていない。 社会的事象について自分事としてとらえる児童が少ない。 資料の読み取りはできるが、そこからの思考が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎単元の初めの学習問題をつくる時間を大切に、資料の提示を工夫することで、子ども一人一人の主体的な追究を大切にしていく。 ◎動画資料や写真を効果的に利用し、資料を読み取る力を高める。 自分で課題を選択し、追究する個別最適な学びと個々の学びを共有し広げたり深めたりする協働的な学びを一体的に充実させる指導を行うことで主体的・対話的で深い学びの実現に近づけることができるようにする。 ◎児童がその時間の学びを次の時間に生かせるよう振り返りシートや評価を工夫する。 ◎単元の最後に課題追究の共有や課題について議論できる時間を設け社会的事象について考えを深められるよう工夫する。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 資料を見て、自分の考えをもつことができる児童が増えた。 用語や人名をワークシートなどで繰り返し練習する時間が確保しきれなかったため、学習内容が定着するまでには至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象に対する興味関心に個人差がある。 政治、歴史ともに日常的に児童が目にする言葉ではないので、漢字の読み書きや、意味の理解が難しいと感じている児童が多数見られた。 複数の資料から読み取ったことを比較・関連付けて考える力や多角的に資料を読み取る力には課題がある。 学習課題について、教科書の中からポイントを見付けることはできるが、自分の考えを自分なりの言葉で表現する力は未熟である。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の興味関心を引き出すために、児童にとって身近な話題や、体験活動を取り入れ、親しみやすい内容の授業を展開する。 ◎複数の資料を比較・関連づけ、多角的に資料を読み取れるように資料を選定し、提示のしかたを工夫する。また、資料から話し合い活動が活発にできるように授業を展開する。 ◎「調べる」段階では視点や調べ方を明確にし指示し、自分の予想を立てさせ、それを解決するために調べようという学習を展開する。 ◎まとめの学習の際に、児童一人ひとりが自分の考えを中心として書き表せるように指導していく。

三鷹市立羽沢小学校 令和5年度【理】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年			
第2学年			
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の際は予想、結果、考察の3点を指導してきたが、考察を書く時に何を書けばよいか分からず、手が止まる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や生き物の観察など、理科の課題に興味をもって学習に取り組む児童が多い。 ・結果をもとに考察する時に、何を書けばよいか分からず、手が止まってしまうことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察を行う前に、課題は何か確認をして、ねらいに沿って活動ができるようにする。 ◎考察を考える際には、個人で思考するための時間を十分に取り、ペアやグループなどで考えたことを伝え合う時間を設けるよう工夫する。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・考察を行う際には、考察の視点を与えたり、結果から読み取ったことを話し合う時間をできるだけ確保したりして、個人の考察力を高めていくことができた。 ・根拠のある予想や仮説を立てられるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを用いて対象の観察をするなど、ICT機器を自分たちで活用することができている児童が多い。 ・既習事項や日常生活、経験などと関連付けて、根拠のある予想や仮説を立てることが難しい。 ・実験結果から分かったことを、一般的な事象として捉えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察を行う前に、課題（問題）は何か確認をして、ねらいに沿って活動ができるようにする。 ・予想を立てる際は、導入に既習事項や日常生活を想起させるような発問をし、根拠をもって予想できるようにする。 ◎考察を考える際には、個人で思考するための時間を十分に取り、ペアやグループなどで考えたことを伝え合う時間を設け、考察内容がより充実したものになるように工夫する。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士での話し合いの機会を充実させることで、個人では考察することが難しい児童も自分の考えを書くことができた。 ・友達の考えを聞いて、新たな視点に気付く児童はいたが、全体的に学びを深めることはできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物や環境に対する関心が高く、どの単元にも意欲的に取り組んでいるが、知識理解には課題がある。 ・実験には意欲的に取り組んでいるが、その結を受けて、これまでの学習を踏まえて考察することができていない。 ・タブレットを積極的に活用し、実験を撮影したり、調べ学習をしたりすることで、より理解が深まっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習を充実させることで、自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりする機会を増やし、より幅広い視点で考察する力を養う。 ・児童にとって身近な題材を提示するなどして、意欲的に学習に取り組めるようにする。 ◎友達の考えを聞いたり、発表を行ったりした後は、必ず自分の考えに立ち返る時間を設けることで、自分の考えを深められるようにする。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適な学びの視点を取り入れて実践できた。ただ、実験には危険の伴うものもあるので、確実な安全確保のもと、今後もその視点を取り入れていく。 ・理科の用語や基礎基本的な知識、実験道具や器具の使い方については、正しい使い方を身に付けるため、教室掲示を用いることで共通理解がもてた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察に対する関心の差が個によって大きい。 ・既習事項や生活体験と関連させて予想や考察を考える児童が少ない。 ・板書を書き写すだけでなく、自分の考えを書き加えたり大切なところを色付けして目立たせたりするなど、自分なりのノート作りができている児童がいる。 ・学習内容について、もっている知識や経験と関連付けて考える力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎個別最適な学びを実現できるよう、一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会を提供する。また、自らの考えを発表したり、友達の考えを聞いたりして、新たな視点で観察や実験を行ったり、自分の考えを深められるようにする。 ◎指導の個別化を図れるよう、児童によって重点的な指導が必要な場合は支援を行う。また、eライブラリを活用し、学習到達等に合わせた復習を行う時間を確保する。 ・実際の生活と学んでいることが関連していることを実感できる時間を確保し、生活に生かしていけるようにする。

三鷹市立羽沢小学校 令和5年度【音楽】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 自治体の発信する感染症拡大防止対策の方針に合わせ、マスクやフェイスシールドの着用の扱いを検討し周知することができた。 鍵盤の練習で、優しい息の吹き方を身に付けることができた。 歌唱活動では、曲の雰囲気に合わせて体を動かしながら歌う様子が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> マスクやフェイスシールドを使わず歌唱活動や器楽活動を行うことができています。 鈴やかスタネット、タンブリンで様々な音を出すことに積極的な児童が多い。 歌詞の表す情景を思い浮かべて、体全体を使って歌うことを楽しんでいる。 鍵盤の学習では、下の位置や指の使い方、息の吹き方に関心をもち、積極的に取り組む様子がみられる。一方で、一斉に音を出したり止めたりする際に、楽しさを優先してしまうこともある。 運指やリズムに苦手を感じている児童には、個別の支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を体で表現する活動では、教室内で工夫して空間を確保し、安全面に配慮しながら積極的に行う。 鍵盤の練習では、指使いや息の吹き方を繰り返し指導し、2年生以降の学びに繋げていく。 歌唱では、歌詞や曲の背景に触れ、風景や気持ちを創造しながら歌えるようにしていく。 ◎低学年から共通事項を手立てとし、音楽への思いや意図をもって学習に取り組むことができるようにする。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 歌うことに積極的で、全身で曲想を表現しながら歌う姿がみられた。 楽譜をもとに演奏する力をつけるため、鍵盤楽器の活動の際に階名唱を積極的に取り入れ、音名に親しんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌を歌うことに意欲的で、音楽を通して自己を積極的に表現できる児童が多い。 音楽をきいて発想を膨らませ、体をつかって表現したり、手拍子や足踏みをしたりする学習をしている。 鍵盤ハーモニカを使用し、指使いと音名、楽譜の学習をしている。 様々な曲想、背景をもつ音楽に触れることで、親しみをもたせたい。 鍵盤の学習は、指使いや息づかいが難しい児童には個別に支援する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学習内容の要点を考えて学ぶ力を身に付けさせるため、共通事項を指導に多く取り入れ、音楽を学びとして意識させるようにする。 合唱活動において、自身の歌声に気を付けるだけでなく、声を合わせて歌う技能を身に付けさせる。 鍵盤の練習では、タンギングや指使い、手の形に注意しながら、演奏を楽しめるようにしていく。 ◎低学年から共通事項を手立てとし、音楽への思いや意図をもって学習に取り組むことができるようにする。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 器楽合奏の活動では、タブレット端末も活用しながら担当する楽器を練習する様子が見られた。 楽器に合わせた音色や表現を意識して演奏できるようになった児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽譜を見て演奏したり歌ったりすることに意欲的に取り組んでいるが、支援が必要な児童もいる。 マスクやフェイスシールド無しに活動ができるようになり、表現の幅も広がっている。 リコーダーの活動に積極的で、息づかいやタンギングに気を付けて演奏する児童が多くみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学習内容の要点を考えて学ぶ力を身に付けさせるため、共通事項を指導に多く取り入れ、身近に使えるようにしていく。 音楽に思いを込める気持ちを大切にしながら、合奏の全体の音を聴けるようにしていく。 正しい運指、優しい音色でリコーダーの演奏をすることができるように指導する。 個人で考える時間を十分に設け、気付いたことを共有することで、曲についての理解を深められるようにする。 ◎低学年で身に着けた共通事項を生かし、自分自身で考えながら学習に取り組む。 ◎キーボード、木琴、鉄琴、打楽器に加え、弦楽器や管楽器など、様々な楽器の奏法に関心をもちさせる。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 器楽合奏では、旋律を覚えて自主的に練習する様子も見られ、互いに教え合ったり音色を工夫したりすることができた。 リズム打ちをしたり、タブレット端末を活用したりして、様々な角度から曲に親しむことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーの活動を積極的に取り入れている。 指揮の学習に意欲的で、ほとんどの児童が全体の前で指揮を披露し、合唱をまとめていた。 鑑賞では、曲想を感じ取って言葉や絵で表したり、好きなどころを見付けながら楽しんで聴いている様子がある。 合奏では音の数や音域が増えているので、イメージをもつことが難しくかったり、運指が追いつかなかったりする児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学習内容の要点を考えて学ぶ力を身に付けさせるため、共通事項を指導に多く取り入れ、身近に使えるようにしていく。 楽曲に取り組む際、音名や音楽記号の意味や音楽要素を理解して演奏できるようにする。 練習は数小節ごと指導し、教師の演奏動画をICT機器で共有してイメージをもたせる。 ◎低学年で身に付けた共通事項を生かし、自分自身で考えて学習に取り組むことができるようにする。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 声を合わせて歌うことを楽しむことができる児童が多い。 器楽合奏では、担当する楽器の音色や表現を工夫しながら意欲的に練習に取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 二声部の合唱に取り組み、きれいな歌声を意識して声を合わせて歌うことができた。 合奏活動では、自分の担当するパートに意欲的に取り組み、友達と教え合う様子もある。 特に歌唱の活動において、美しい音色で歌うことができても積極的に表現しようとしないう児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎音源を厳選し、様々な音楽の形やその美しさに触れながら、自ら表現しようとする力を伸ばす。 自分の担当する声部を自信をもって歌うことができよう、導入を工夫したり個に応じたアドバイスをを行った。 器楽合奏では、自分のパートの役割を考えてよりよく合わせるために、協働して工夫を重ねていくことができるよう指導する。 ◎低・中学年で身に付けた共通事項を生かして、自分自身で考えながら学習に取り組むことができるようにする。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 合奏では、旋律を覚えて自主的に練習する様子が見られ、友達と教え合ったり意欲的に学んだりする児童が多い。 アンサンブルでは、担当するパートの役割を考えて音色を工夫する児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 声部に分かれた合唱で友達と歌い合わせることに意欲的な児童が多い。 新しい曲や楽器に触れる際、消極的になってしまう児童がみられる。 感染症対策の影響でリコーダーの経験が少なく、苦手意識をもっている児童が多い。 鑑賞の活動では、指揮者や曲の表現の違いに注目して聴き、気付いたことを共有したり記述することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎共通事項を指導に取り入れて音楽的な学びを深めると共に、中学校での学習につなげていく。 積極的・意欲的な授業態度や気持ちを大切に、個別最適な学びの実現を目指して指導を工夫する。 合奏やアンサンブルではいろいろな楽器に触れさせ、役割を意識した表現を深められるようにする。 リコーダーへの苦手意識を払拭するため、短い旋律を繰り返し練習したり、範奏を動画で確認できるようにするなどの支援を行う。 音楽の諸要素はその都度説明を加え、知識を生かして表現を深められるようにする。

三鷹市立羽沢小学校 令和5年度【家庭】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年			
第2学年			
第3学年			
第4学年			
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活に目を向け、できることを増やしていけるように計画し、実習を行った。 ・視聴覚機器、図書資料、実演などを通し、児童にわかりやすい指導を心掛けた。 ・サポート隊を活用し、児童の実態に合わせた指導をし、技能を高めてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活に関心をもっており、意欲的に新しい知識や技術を積極的に身に付けようとしている。 ・生活体験に個人差がある。 ・自分の生活の中から課題を見つけ、追究できるようにさせたい。 ・学習したことを生かす機会を作りたい。 ・学習したことをタブレット等を用いて、まとめたり説明させたりする機会を作りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活に着目できるよう、授業の様々な場面で振り返らせたり、家庭でインタビューしたり調べたりしたことを授業に生かすようにする。 ・学習したことや技術などを定着させるために、他の単元や家庭生活で実践する機会をもつ。 ・技能の定着のために、くり返し練習できる機会を作る。 ◎タブレットや図書資料を使い、興味をもったことや深く知りたいと思ったことを調べる機会を設ける。 ◎学習したことをふり返りまとめる機会を設け、課題をタブレット末等を使って説明する活動を充実させる。 ◎サポート隊を活用し、児童の実態に合わせたきめ細かい指導をし、さらに技能を高めていく。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活に目を向け、できることを増やしていけるように計画し、実習を行った。 ・視聴覚機器、図書資料、実演などを通し、児童にわかりやすい指導を心掛けた。 ・サポート隊を活用し、児童の実態に合わせた指導をし、技能を高めてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活に関心をもっており、新しい知識や技術を積極的に身に付けようとしている。 ・学習したことを定着させるための時間の確保が難しい。 ・学習したことをふり返り、まとめたり説明したりする機会が少ない。 ・生活体験に個人差がある。 ・自分の生活の中から課題を見つけ、追究できるようにさせたい。 ・学習したことを生かす機会を作りたい。 ・学習したことを言葉や学習用端末を用いて、まとめたり説明させたりする機会を作りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活に着目できるよう、授業の様々な場面で振り返らせたり、家庭でインタビューしたり調べたりしたことを授業に生かすようにする。 ・学習したことや技術などを定着させるために、他の単元や家庭生活で実践する機会をもつ。 ・技能の定着のために、くり返し練習できる機会を作る。 ◎学習用端末や図書資料を使い、興味をもったことや深く知りたいと思ったことを調べる機会を設ける。 ◎学習したことをふり返りまとめる機会を設け、課題を学習用端末等を使って説明する活動を充実させる。 ◎サポート隊を活用し、児童の実態に合わせたきめ細かい指導をし、さらに技能を高めていく。 ◎話し合いや鑑賞活動を通して、幅広い活動ができるように配慮する。

三鷹市立羽沢小学校 令和5年度【図画工作】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に応じた題材を工夫することができた。 題材を通して必要な技術を身に付けることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に活動に参加できる一方、集中力がなく、すぐに活動に飽きてしまう児童が多く見られる。 失敗を極端に恐れる児童がいる。 手先の不器用さから、道具が上手く扱えない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2時間設定に囚われず、短時間で活動を・成功体験が積めるような題材を設定する。 遊びの中で技術や表現力が養われるような活動を設ける。 はさみや絵具などの道具を上手に使いこなせない児童には、持ち方や扱い方の指導をその都度行うようにする。 ◎表現したいものがわからない児童のために、事前に考えておくように伝える。また完成型の具体物や写真などを用意する。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に応じた題材を工夫することができた。 意欲的に絵画活動や創作活動に取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に絵画活動や創作活動に取り組むことができる。 遊びながら様々な画材や技法に触れさせる。 自分の考えを表現するのに時間がかかる児童がいる。 道具の使い方や丁寧さに課題がある児童に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が意欲的に学習に取り組むことができるよう、丁寧に手順を説明する。 成功体験が積めるような題材を設定する。 遊びの中で技術や表現力が養われるような活動を設ける。 はさみや絵具などの道具を上手に使いこなせない児童には、持ち方や扱い方の指導をその都度行うようにする。 ◎お互いの作品を見合う時間を設定し、作品の面白さや楽しさに気付かせていく。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に応じた題材を工夫することができた。 意欲的に絵画活動や創作活動に取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業には意欲的に取り組むことができる。 友達の作品をお互いに見合うことで自分の表現を深めることができるようになってきた。 集中力がなくすぐに活動に飽きてしまう児童や、他のことに気を取られて作業が進められない児童が見られる。 用具の扱いに不安がある児童が見られる。 自分の表現を見直し、さらに工夫した表現を目指すことを課題とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業導入時に既習事項について学んだことを確認し、活用できそうな技術や表現方法を考えさせる。 毎時、道具の扱いの振り返りをする。 ◎お互いの作品を見合う時間を設定し、意見交換する中で、表現の面白さや楽しさに気付かせていく。お互いの作品を見たり、助言し合ったりする時間の確保をする。 ◎作品作りを行う前に丁寧な導入を行い、制作の計画を立て見通しをもたせる。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 自分以外の作品に目を向けて、自分の表現として取り入れることができた。 児童同士で教え合ったり、手伝ったりする姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業に意欲的に取り組むことができる。 友達とお互いの作品を見合うことで自分の表現を深めることができる。 完成を急ぐことにとらわれて、自らの表現を見直したり、さらに工夫しようとしたりすることが苦手な児童に対応する。 自分の発想を、既習事項を活用して表現することが苦手な児童への対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 完成を急ぐことを目的とする児童には他の児童の作品を鑑賞させたり、新たな技法を紹介するなどさらに工夫できる点を考えさせ、制作に反映できるようにする。 授業導入時に既習事項について学んだことを確認し、活用できそうな技術や表現方法を考えさせる。 ◎お互いの作品を見合う時間を設定し、意見交換する中で、表現や技法の工夫や楽しさに気付かせていく。 ◎作品作りを行う前に、丁寧な導入を行い、イメージを広げ、制作の計画を立て見通しをもたせる。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 自分以外の作品に目を向けて、自分の表現として取り入れることができた。 児童同士で教え合ったり、手伝ったりする姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業に自とでも意欲的に取り組むことができる。 工具や道具の扱い方に慣れてきており、多彩な表現をすることができるようになってきた。 とても積極的に制作活動に望める児童が多いが、表現が毎回同じになる児童が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業導入時に既習事項について学んだことを確認し、活用できそうな技術や表現方法を考えさせる。 ◎お互いの作品だけでなく、国内外の作品に触れ鑑賞活動を行い、良さや美しさを感じたり、自分の表現に活かしたりするようにする。 ◎導入の際に、丁寧な導入をして、イメージを深められるようにする。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 授業導入時に既習事項について学んだことを確認し、活用できそうな技術や表現方法が考えられていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業には楽しく取り組むことができるが、他の児童の様子が気になり、自分の題材に集中できないことがある。 時間を気にせずにダラダラとしてしまうところがある。 自分の発想を、既習事項を活用して表現することが苦手な児童への対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に取り組むにあたって丁寧な導入を行い、課題と取り組み時間について明確に見通しを立てるように計画を立てさせる。 今まで使ってきた様々な道具や工具、材料などを活用しながら表現を深めることを目指すよう指導する。 授業導入時に既習事項について学んだことを確認し、活用できそうな技術や表現方法を考えさせる。 ◎お互いの作品を見合う時間を設定し、意見交換する中で、表現や技法の工夫や楽しさに気付かせていく。 ◎作品作りを行う前に丁寧な導入を行い、制作の計画を立て見通しをもたせる。

三鷹市立羽沢小学校 令和5年度【生活】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・学校探検などで、2年生との交流をもつことができた。 ・朝顔の観察では、観察をするポイントをしっかりと押さえて観察することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物や生き物に興味をもち、栽培や飼育活動に意欲的に取り組み、育ちや成長の様子に気付くことができる。 ・友達や異学年の児童、地域の方々など様々なお世話になっている方々の存在に気付いていない。 ・植物の育ちの変化や成長の様子などについて気付いてはいるが、観察カードに書き表すことが苦手な児童がいる。 ・学校探検では、見つけたものを友達に発表し、表現することができた。 ◎自分の生活や経験に結び付けて、活動を楽しんだり、工夫したりする力が付くような指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・育ちの変化や成長の様子のポイントを意識させるため、児童の実態に応じた問いを吟味したり、観察の際に視点を明確にしたりする。 ・担任や保護者から自分と地域の方々との関わりについて話を聞くことで、自分との関わりを意識させるとともに、関わろうとする意識をもたせるようにする。 ・活動を通して、表現する機会を増やし、言語化させる。特に振り返りを大切にし、次の活動につなげられるようにする。 ◎生活科ならではの体験を重視した学習を大切に、自分の生活や経験に結び付けて、活動を楽しんだり、工夫したり、表現したりする力が付くような指導が必要である。 ◎観察をしたり、活動をしたるときは、ポイントをしっかりと押さえてから聞かせるようにする。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生との交流をもつことができた。 ・表現するポイントをしっかりと押さえてから活動することで、視点を養うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材を活用した授業を展開し、子どもたちが、地域の人を身近に感じることができた。 ・目的を確認した上で、体験活動を展開することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に活動に取り組むための手立てをとる。 ・社会との関わりに気付かせるための学習活動と手立てをとる。 ◎学習活動とその視点や要点を明確に示す。 ・何のための活動なのか意味を考えさせる。
第3学年			
第4学年			
第5学年			
第6学年			

三鷹市立羽沢小学校 令和5年度【体育】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症予防等、児童の健康や安全に留意して運動を行うことができた。 ◎児童が互いの運動を見合うことで、友達の良さを見つけたり、アドバイスをし合ったりすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間は、鬼遊びやボール遊び、固定遊具遊び等に積極的に取り組み、運動の日常化が図れている。 ・運動経験の違いから、児童の体力差が大きい。 ・友達と一緒に運動することを楽しんでいるが、自分の思いを優先してしまい、チームで協力することが難しかったり、活動に参加できなかったりする児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外遊びを引き続き推奨し、運動の日常化を図ることで体力の向上を図れるようにしていく。 ・運動経験の差を考慮し、主運動を行う前に主運動につながる運動を取り入れていくことで意欲的に活動できるようにしていく。 ・友達と協力して、楽しく学習を行うためのきまりやルールの指導をしていく。 ◎互いの運動を見る時間をつくり、学び合い学習を行う。 ◎学習カードを活用して、技能の習得に生かしたり、自分の学びを記録する時間を設定する。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の健康管理、感染症や熱中症の予防に留意して授業を行うことができた。 ・ICTを活用した授業は、あまり実施できていない。 ・互いの運動を見る時間をつくり、良さを考えさせることができた。 ・学習カードを用いて、成果を記録することができた。思考したことについては、指導を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童は楽しく授業に取り組むことができている。 ・逆さ感覚に乏しく、鉄棒運動に恐怖心をもっている児童や苦手意識をもっている児童がいる。 ・運動の技能の習得に必要な諸感覚が乏しく、技能の習得に支障をきたしている児童もいる。 ・楽しく学習を行うためには、ルールを守ることが大切であることは継続した指導を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態や児童の願いを考慮して、運動遊びのルールや決まりを作っていく。 ・互いの動きの良さに気付けるような場づくりを工夫する。 ◎学習カードを用いて、思考したことを書き記したり、振り返りを行ったりする時間をとる。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで活動する際に、運動のポイントを教え合う姿が見られるようになった。 ・学習の振り返りで、自分や友達の良かった点を見付けることはできるが、次時の学習に生かそうとする児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思い切り体を動かす楽しさや心地良さを感じ、積極的に運動に親しむ児童が多い。 ・みんなが楽しめるためのルールを話し合っていることができる。 ・動きにぎこちなさが見られ、運動感覚を身に付けることが必要な児童が多い。 ・自己やチームのめあてを意識して運動に取り組む児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎担任が児童の運動能力を十分理解したい上で個々に応じた指導の工夫や説明の仕方、動画等の活用、手本の提示、場の設定などの手立てをする。 ・本運動につながる運動感覚を高められるような運動を授業の導入で取り入れる。 ・休み時間や放課後の外遊び等日常的に運動の習慣化を図る。 ・各単元の第1時で、動画などの資料を生かして、児童にゴールイメージをもたせ、主体的に学ぶ意欲を高めさせる。 ◎学習カードやタブレットを活用し、自己やチームで課題を相談したり、解決したりする時間を取り入れる。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と話し合いながら、自分やチームの課題を解決する時間を確保することができた。 ・学習カードを用いて、思考したことを書き記したり、友達に伝えたりする学習活動を組ませた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に意欲的に取り組む児童が多い。 ・「みんなが楽しめる」ように規則を工夫しようとアイデアを出し合えた。 ・自分やチームの課題を見つけ、課題解決の方法を見つけたり取り組んだりすることが難しい。 ・チームで話し合っって簡単な作戦を立てようとする意識が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎よりスムーズな動きにするために、ICTを活用したり場の設定を工夫したりする。 ・主運動につながる運動感覚を高められるような運動を授業の導入で取り入れる。 ・ICTを活用して自己やチームで課題を見つけたり、課題解決するために話し合ったりしたりする時間を確保する。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを活用することで、自分の動きを確認することでより技能を高めることはできたが、学習カードに思考面の記述をすることは難しい児童が多い。 ・簡単な動きを取り入れた導入を増やしたが、苦手な運動領域に対して消極的な児童が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きな児童が多く、意欲的に取り組むことができている。 ・数年間、運動機会が減少したことにより、体力面や技能面に課題のある児童が多い。特に泳力と柔軟さに顕著に出ている。 ・勝負にこだわる児童が多く、仲間や相手に対しての声掛けがきついていることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れを明確にし、児童が次に何をすべきか把握することで、移動時間や隙間の時間を減らし、実際に体を動かす時間を多く確保する。 ・授業中は、児童のよい動きや粘り強い姿勢を見付け、意識して称賛の声掛けを増やすことで、苦手な運動にも前向きに取り組めるようにする。 ・ゲーム後に、友達へのよい言葉掛けを全体で共有することで、楽しく運動に取り組める環境づくりを行う。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードに活動のポイントや話し合いの視点となるもの記載することで活動がより活発になった。 ・学習の振り返りは、自分の考えを他者に伝えられる児童が多く見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言以降、体を動かす機会が減ったことによる児童の体力低下が顕著である。 ・運動を得意とする児童と苦手とする児童の差が大きい。 ・タブレットが支給されたことで、タブレットを活用した学び方が見られるようになってきた。 ・運動の日常化を図る取り組みが必要である。 ・運動が苦手な児童でも楽しんで取り組める指導の工夫が必要である。 ・タブレットの効果的な活用方法を学び、授業に取り入れていくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中に運動が楽しいと思える活動をたくさん取り入れ、運動の日常化につなげていく。また、持久走週間や縄跳び週間といった取り組みを機会に進んで運動しようとする思いをもてるようにする。 ◎主運動につながる練習を楽しんで行えるように工夫する。また、運動が苦手な児童も楽しめるルールを取り入れていくことで意欲的に活動に取り組めるように促していく。 ・教師がタブレットの機能と活用の仕方を学び、学習活動の中で有効な活用の仕方ができるようにしていく。

三鷹市立羽沢小学校 令和5年度【外国語】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年			
第2学年			
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・デモンストレーションや手本を見せることで児童の活動意欲を高めることができた。 ・ICT機器を活用することで楽しみながら外国語に親しむことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用しながら、アクティビティやチャンツなど楽しんで活動している。 ・ALTの発音をよく聞き取り、英語での表現を楽しんで発話している。 ・HRTが積極的に英語を発話したり、ALTと可能な限り英語でコミュニケーションをとろうとしたりする姿を見せることで、児童の取り組む姿勢も変わってきている。 ・授業の終末に本時のReviewを英語のみではなく日本語を交えて行うことにより、学習理解をより確かなものにし、児童の英語に対する自身も深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用して、楽しく分かりやすい指導ができるように工夫する。 ◎今以上にHRTが積極的に発話したり、ALTと英語を用いてコミュニケーションをとったりする姿を児童に見せることで、「英語を話すかつ良さ」や「失敗を恐れないこと」を伝えていく。また、一般的に口形指導なしで正しい発音が身に付くのが10歳前後までだと言われているので、引き続き授業における発話の比重を多く取るようにする。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ◎英語表現を聞くだけでなく、学んだことを使ってコミュニケーションを図る機会を多く設定することで、より楽しんで英語に慣れ親しむことができた。 ・チャンツやアクティビティ、ゲームなど、児童が楽しみながら外国語に親しむことができる活動を帯時間で取り入れることで、その後の活動がよりアクティブになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書を活用して、アクティビティやチャンツ等に取り組み、よりネイティブに近い発音を聞くことができています。 ・伝えたいという思いがあるが、英語表現に自信がなく、発言をためらってしまう姿がある。 ・児童同士がコミュニケーションを図る場面では、楽しんで活動しているが、会話の内容を聞くと、日本語が主になってしまっていたり、間違った英語を使っていることもある。 ・毎時間ごとに振り返りを行うことで、その時間ごとに自信の取り組みを確認し、できるようになったことを確かめられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もICT機器を有効に活用し、児童の学びがよりアクティブになるように努める。 ◎英語表現を定着する場面と、学んだことを使ってコミュニケーションを図る場面とを明確にし、自信をもって活動できるようにしていく。また、自信のない児童については、全てが英語ではなくてもよいことを伝え、楽しんで学習に参加できることを最優先にしていく。 ・今後も振り返りを行うことで、自信の伸びを感じられるようにしていく。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の身近な話題に沿うような内容を増やしたが、コミュニケーションに関して消極的な児童が多かった。 ・毎時間の始まりに前時の振り返りをして、難しい単語や文のフォローアップを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板などのICT教材を効果的に使い、多面的な活動ができてきている。教科書の流れに沿った学習形態に児童も慣れてきている。 ・ALTや教師、友達とのやり取りに意欲的に取り組んでいる児童が多い。一方、自信がなく消極的な児童もいる。 ・書くことに関しては苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎消極的な児童には、ゲーム性のある内容を充実させることで、楽しく英語に触れる時間を増やし、意欲を高める。 ・毎時間の授業の始まりに前時の振り返りを行い、理解の定着を図る。 ・個別最適な学びを目指し、個人の習熟度に合わせ、アルファベットの書き方から簡単な英単語の書き取りまで、幅広く行うことで、自信をもたせる。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な表現や文字には親しみ、使えるようになってきている。 ・即興的な活動や既習事項を活用することには課題がある。 ・パフォーマンスチャレンジでは、ALTとの活動を事前に熱心に練習して臨んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板などのICT教材を効果的に使い、多面的な活動ができてきている。教科書の流れに沿った学習形態に児童も慣れてきている。 ・自信がなく消極的な児童や相手に聞こえない声を出せない児童もいる。 ・書くことに関しては、英単語や文章を見ながら間違えずに写すことはできている。 ・既習事項の定着が課題である。 ・英語だけに限らず、他国の文化や言語を学ぶ内容も取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・eライブラリ等のタブレット教材を活用し既習事項の確認を行う。 ・授業の最初にアルファベットジングルやABCの単語の書き取りクイズを取り入れ、繰り返し取り組む。 ・世界各国の文化や言語も教科書の中で取り上げたり、インターネット等を活用したりする。 ◎消極的な児童には、正しい文法を意識させすぎず、自分の言いたいことを英語で表現する楽しさを実感できるようにする。 ・中学校の乗り入れを活用し、レスポンスの仕方について中学校教員に指導してもらう。

三鷹市立羽沢小学校 令和5年度【道徳】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に合わせて導入や発問を工夫することができた。 自分の考えをもてるようになった児童が増えたが、書くことに苦手意識をもっている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生活から具体的な場面を取り上げて指導することで、導入での興味関心を高めている。 教材文の内容を自分事として考えることができない児童がいる。 学習シートに自分の考えを書けない児童がいる。 自分の考えを表現すること（書くこと、交流すること）を苦手とする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実態に応じた身近な場面やアンケート等を活用して、自分事として考えるための導入を工夫する。 ◎自分事として考えさせるため、自分自身について振り返る時間を確保する。 ◎学習シートを工夫し、自分の考えを書く時間を確保する。 書くことに苦手意識をもつ児童は、板書した友達の考えを参考にしたり、交流のときに話している内容から教師が見取りをする。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを各時間を確保することができている。 意見交流の場を設けることができています。 児童が主体的に取り組めるように、発問を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入は、児童が身近な場面から考えられるような発問を行っている。 少人数から全体での意見交流をしている。 ノートを活用して、学びを記録している。 自分の考えを表現することが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組めるように、導入や発問を工夫していく。 ペアやグループなど少人数交流の場の設定をする。 ◎自分の考えを書く時間を確保し、表現の仕方の例示をする。 ◎授業で学んだことを、自分の生活に結び付けられるようにする。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 全体の前で発表する児童が増え、ノートやワークシートに自分の思いや考えを書くことができる児童が増えた。 振り返りの時間に自分事としてノートやワークシートに書くことは、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材文の登場人物の気持ちや言動の意味をよく考えながら、自分の言葉で考えをまとめている。 意見交流をし、友達の意見を聞き、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる児童が多い。 振り返りの時間に、教材文から離れない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分の生活に置き換えて考えられるような構成や発問を工夫する。 導入で、学習始めの自分の考えを引き出す。 考える時間を十分に確保する。 児童の意見を板書し、可視化する。 振り返りでは、自分の考えの深まりと実践意欲を引き出す発問をする。 ◎ペアや、トリオなどの少人数での意見交流の時間を設け、様々な考え方にふれる機会を増やす。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 意見交流の場の設定することができた。 ペアやグループでの交流を取り入れたことで、自分の考えを伝える児童が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材を読み、登場人物の気持ちや行動の意味をよく考えながら自分の意見をまとめている。 互いの考えを聞きながら、自分の考えを深めたり広げたりする児童が多い。 自分の考えをもっているが、発言できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分事として考えるために、葛藤場面をつくったり「自分だったらどうするか」の視点で考えさせたりする。 道徳的価値がぶれないように、ねらいを明確にして授業を構成する。 小集団で意見を交流する時間を確保し、全員が自分の意見を発信していけるようにする。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 自分で考える時間を確保してワークシートにまとめたり、友達と考えを交流したりすることで、より深い考えをもつことができるようになった。 様々な考えを全体で共有することで考えを広げるとともに他者理解にもつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「劇団・道徳」称して、役割演技をする活動を多く取り入れており、自然とその場面に思いを寄せることができる。 互いの考えを聞きながら、自分の考えを深めたり広げたりする姿も見られる。 時間ごとの道徳的価値を意識し、考えを深めることができています。 学習した道徳的価値を自分の生活に照らし合わせて考えたり、実生活に活用したりする実践態度には至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分事として考えるための工夫を行うと共に、生活で活用できる場面を考えさせるようにする。 考える時間を確保するとともに、ねらいに向けた個別の声掛けや考えをもつためのヒントとなるものを準備する。 ◎小集団で交流する時間を確保し、交流する内容を明確にした意見の伝え合いを行うようにする。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 場面の状況についての理解ができているか、数人の児童に発言させて、全体で共有した。その上で考えが深まっていない児童には、再度問いかけることで、考えを深めていた。 学んだことを普段の行動に生かそうとしている様子を見取って紹介したり、似た状況の時に想起させたりした。 	<ul style="list-style-type: none"> 学びを深める場面では、おかれている状況をしっかりと理解して考えをもつことができる児童が増えてきている。 自分の考えや思いにしばられ、他者の考えや思いに共感できなかったり認められなかったりする児童がいる。 学んだことを自身の生活と関連させて考えることができていないことがある。 おかれている状況によって考え方が変わることや、人によって感じ方や考え方が異なることを理解できるようにする。 考えを深めたことと自身の生活を関連付けて生かしていけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面ごとに登場人物のおかれている状況を丁寧に理解させ、登場人物の思いや考え方を想像させる。 ◎話し合い活動を充実させ、互いの考えを認め合えるようにする。 ◎学んだことを普段の自身の行動と重ねて考えさせ、普段の生活も意識して行動しようという思いをもたせる。

